

## ○本校教員による 帝京大学 過去問解説の様子と生徒の感想

### ☆生徒の感想

#### 3年 O.S さん

今回学んだ和文和訳という技術は、並び替えなどの問題や他の問題でも非常に有用性のある技術だと感じた。しかし、問題に書いてある和文を自分が英語で表現しやすいように書き換えることは簡単なことではなく、ある程度の練習をしないと使える技術にはならないので練習が必要になってくると思った。英語の問題集のように英語の分野ごとに並んでいるのではなく、全ての分野が混ざって出題されるので、瞬時にどの文法なのかわかるような基礎力は重要だと感じた。膨大な量の文章を読むときや単語を覚えるときにはイメージが大事だと感じた。文法や単語の知識は機械的に覚えることも必要になってくるが、長文を読む上では一文ずつの意味ではなく大体のイメージで捉えることも必要になると思った。



#### 3年 H.K さん

まず初めに帝京大学総合型選抜（英語）の特徴について説明をいただき、①共通テストよりも取り組みやすいこと、②対策を立てて取り組みれば十分合格できること、③他大学や共通テストにも役立つこと、④力試しのタイミングとして良い、という以上4つから自分で理解を進めることができ、かつ基礎的な内容で一般的であるため、他の大学や共通テストに応用が効くのでやって損はないことがわかりました。何をやるにも基礎を固めることは重要だと思うので、この問題を解けるようになることが一つの目標になると思いました。次に教養について説明をいただき、サブスク、ドキュメント、ハンサム、オプティミスト、デジタルネイティブなどの実際に問題に出ている単語を、語源と繋げて意味を知ることができたので、ただ暗記するだけではなく物事の根本を見つけることが大切だとわかりました。普段から物事の根本を考えて行動するのとしらないのでは、毎日気づくことや知ることの意味があると感じられる機会も変わると思います。社会に出れば答えがすぐに出ない問題が増えるため、社会の様々な事象を自分に引きつけて考えられるかどうか大事だと知りました。教養を身につけるためには、知的好奇心を持って、普段から読んで慣れたり、音読したり、目に触れる機会を増やし、多読する事が大事だと感じました。また、本題の問題解説では和文和訳の大切さに気づきました。よく問題に出てくる英文は日本語に訳すと日本ではそんな言い方しないと思う時が今までも多々ありました。そんな時和文和訳で自分のわかりやすい言い回しに変えることで、簡単に文章を作ることができるのだと今日感じました。

今日の解説を通して、今まで自分にはなかった知識を知ることができ、これから英語の勉強をする時に根本を考える見方を意識してできたらいいなと思いました。英語以外でも自分に関わる全ての物事に対して、根本的な部分から探っていきそれを知識として吸収するために、何度も反復したいなと思いました。これから帝京大学のこの問題を一つの目標として視野に入れ、基礎を固めることを意識して取り組んでみたいと思います。また他の教科や普段の生活にも役立てて生かしていきたいです。

#### 3年 M.K さん

今回の講演を聞いて、英語の勉強をする上で大切なのは興味を持つことだと思った。私は、英単語の意味を覚えることが苦手で、ひたすら赤シートで隠して覚えるしかないと思っていた。しかし、一つひとつの英単語の語源を調べたりして、英語に関心を持つことで、より英単語が頭に入ることが分かった。長文を読んでいるときに知らない単語を見つけたら、そのときに語源を調べて、知らないことに貪欲になろうと思う。そして豊かな教養をつけたい。

英語に限らず、何事にも貪欲になることで頭が柔らかくなり、自分の知識を広げられると思う。この取り組みを大学受験に向けて行うことで、卒業後の将来にもつなげていきたい。